

令和7年度

「運営に関する計画」

最終評価



大阪市立中大江小学校

1 学校運営の中期目標

現状と課題

○学期ごとの「いじめアンケート」で実態を把握し、その都度速やかに聞き取り等の対応をするとともに、子どもに寄り添いながら解決と再発防止に当たってきた。対処的な指導ではなく、自分を大切に、まわりの人を大切にする指導を継続し、いじめそのものが起きないような集団作りを目指し、学級担任や学年団だけではなく、学校全体としていじめを撲滅する取り組みを続けていく。

○学校に行きづらい、学校に行けないと感じる児童の割合は年々増加しており、不登校に定義される児童の数は増え続けている。

○昨年度も引き続き、オンライン朝会や、学級活動、帰りの会などで学校のきまりについて振り返る時間を確保したことで、「学校のきまりや規則を守っている」の項目では肯定的な回答をしている児童の割合が一昨年の84%から89%と増えている。しかしながら、実際にはきまりを守れていない場面を見る機会が多く、児童の意識の改善も引き続き行っていく必要がある。

○積極的にICT機器を活用して授業を実践してきた。また、児童も学習の中で多くの時間にICT機器に触れ合うことができていた。しかしながら、年度目標であるICT機器の使用頻度に関わるアンケートにおいては、目標と結果に大きな乖離が見られた。

○体育の授業において20mシャトルランや3分間走などに取り組むことに加え、休み時間の体育館開放、バスケットコートやボルダリングスペースの開放、ピロティ部分の活用などを行い、運動の機会を増やすような取り組みをしてきた。今後は、感染対策を行いつつ体育的行事などを行うことによって、運動に消極的な児童も体を動かす機会を増やしていくようにしていく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・令和7年度の全国学力・学習状況調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、不登校の児童の割合を、毎年、前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を、毎年、増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和7年度の全国学力・学習状況調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について最も肯定的に答える児童の割合を、令和3年度より1ポイント増加させる。
- ・令和7年度の全国学力・学習状況調査の思考・判断・表現(言語についての知識・理解・技能)に関する項目の平均正答率を、令和3年度より1ポイント増加させる。

- ・令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を50%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・令和7年度の全国学力・学習状況調査の「5年生のときに受けた授業で、コンピューターなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、85%以上にする。
- ・ゆとりの日の設定を、週1回以上設定する。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を83%以上にする。
(R6本校81.1% 市81.5%) → (R7本校80.7% 市83.0%)
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
(R6本校2.08%) → (R7本校2.99%)
- ・小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を95%以上にする。
(R6本校93.7% 市95.0%) → (R7本校95.4% 市95.1%)
- ・小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を83%以上にする。
(R6本校82.3% 市80.0%) → (R7本校78.0% 市81.9%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。
(R6 3年1.08 4年1.06 5年1.06)
(R7 4年1.08 5年1.13 6年1.05)
- ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を86%以上にする。
(R6本校84.3% 市78.7%) → (R7本校84.3% 市78.3%)
- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を45%以上にする。
(R6本校43.7% 市40.5%) → (R7本校46.5% 市41.6%)
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。
(R6本校69.0% 市68.9%) → (R7本校68.5% 市69.2%)

【学びを支える教育環境の充実】

- ・ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕(R7本校8.0%【1月末】)
- ・ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を70%以上にする。
(R6本校69.05% 市62.16%) → (R7本校70.21%【2月末】)
(参考)
基準1 ア 1か月の時間外勤務時間が45時間を超えないようにすること
イ 1年間の時間外勤務時間が360時間を超えないようにすること

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

- ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答した児童の割合は、80.7%で目標を上回ることができなかった。ただ、学年によっては最も肯定的な回答が87.9%になっていた。引き続き、安全・安心な学級集団づくりに取り組みながら、いじめを許さない学級風土の醸成に努める。そして、いじめについて児童自身が主体的に考える授業づくりを学年の実態に合わせて進める。
- ・ 不登校児童の在籍比率は、前年度より0.01%増加した。しかし、年度途中から登校できるようになった児童も複数名いるなど、改善と捉えることができる実態もあった。学級担任を中心に、安心できる人づくりや居場所づくりを今後も広げていく。
- ・ 小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は95.4%となり、目標を上回った。学級での取組だけでなく、たてわり班など、学校全体で自己有用感を高める活動を行った結果であると考えられる。
- ・ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は78.0%となり、目標を下回るとともに昨年度より低い値となった。学年によるばらつきが見られることから、それぞれの学年の実態を丁寧に分析するとともに、学年に応じた実践を模索していく。

中期目標

令和7年度の全国学力・学習状況調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は、90.7%となり、目標を上回っていた。しかし、不登校児童の割合は前年度より増えるなど、課題が残っている。不登校傾向にある児童への関わりを組織的に行うために、月1回会議を開いたり、区役所と連携して支援方法を探る「スクリーニング会議Ⅱ」を積極的に活用したりするなど、今年度から新たに取組を充実させた。その結果、改善傾向にある児童も少しずつ増えてきた。今後も、一人ひとりの児童が安心して生活できる集団づくりを行い、誰もが楽しいと思える環境にするとともに、丁寧な支援を継続して行っていく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・ 小学校学力経年調査における国語の平均正答率を同一母集団において比較すると、標準化得点については、いずれの学年も前年度より向上していた。めあてや振

り返りを重視した授業づくりに努めるとともに、学習の定着を図ってきた結果であると考え。

- ・ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は84.3%で、目標を上回ることができなかったが、市平均の78.3%は上回っていた。理科教育推進校として各学年理科を専科とし、児童の深い学びにつなげるために、理科補助員とともに観察や実験の準備をしっかりと行ってきた。来年度以降も、今年度の成果をつなげていきたい。
- ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合は46.5%となり、目標を上回っていた。すべての教科で言語活動を意識しながら日々の授業を展開していた成果が表れたと考えられる。また、話し合うことができる安全・安心な学級づくりに努めた結果であると考え。
- ・ 小学校学力経年調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は、68.5%で目標を上回ることができなかった。しかし、体育科の研究授業に取り組んでいる児童の様子を見ると、その活動を楽しんでいる様子が見られた。今後は、特定の種目や運動に限らず、広く体を動かすことの心地よさを感じることができるようになるとともに、仲間とかかわることで楽しいと思えるような日々の取組を進めていく。

中期目標

全国学力・学習状況調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について最も肯定的に答える児童の割合は、令和3年度27.3%、令和7年度49.5%となっていた。質問項目の文言が少し変わっており、厳密には直接比較することはできないものの、児童は、日々話し合う活動を行っていると感じていると判断できる。また、この間国語科を研究教科として取り組んできた時期もあり、教員の授業力の向上が結果として表れたと考えられる。

令和7年度の全国学力・学習状況調査の思考・判断・表現（言語についての知識・理解・技能）に関する項目の平均正答率については、令和3年度は84.9%で令和7年度は83%であった。目標を上回ることができなかったものの、依然として全国・大阪市平均を上回っており、日々の取組が児童の学力に結びついていると考え。

令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合は、男子72.7%、女子54.1%で目標を大きく上回った。昨年度より体育科を研究教科として取り組んできたため、児童の運動に対する意識が向上したと言える。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数は、目標を上回ることができなかった。研修等を行いながら、効果的に活用する授業に日々取り組んでいるので、少しずつ活用率は向上している。今後も継続して取組を進めてい

く。

- ・ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合は、2月末時点で70.21%で目標を上回っていた。スクールサポートスタッフやワークライフバランス支援員と協働しながら、効率的に仕事をするなど、各自工夫しながら業務を行っている。今後も、働き方と働きがいのバランスを考えながら、安全・安心な職場づくりに努めていく。

中期目標

令和7年度の全国学力・学習状況調査の「5年生のときに受けた授業で、コンピューターなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合は、25.8%で目標を上回ることができなかった。授業の中で効果的に使用している場面はたくさんあるものの、児童の意識として毎日使用している実感がないと考えられる。「こころの天気」の入力を必ず行うなど、意識してタブレットを開く習慣をつける必要がある。

働き方改革のひとつとして、「ゆとりの日」の設定を週1回行ってきた。職員同士で声を掛け合う姿が見られるなど、定着しつつあり、今後も継続して実施していく。

(様式2)

大阪市立中大江小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を83%以上にする。 (R6本校81.1% 市81.5%) (R7本校80.7% 市83.0%)・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 (R6本校2.08%) (R7本校2.99%)・ 小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を95%以上にする。 (R6本校93.7% 市95.0%) (R7本校95.4% 市95.1%)・ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を83%以上にする。 (R6本校82.3% 市80.0%) (R7本校78.0% 市81.9%)	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>○ 毎学期行ういじめアンケート等でいじめの早期発見に努め、適切に対応する。また、人権教育や道徳教育、体験活動等、教育活動全体を通して、児童自身が主体的にいじめ防止に向けた取組を進めることで、いじめの未然防止につなげる。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳等の学習や各学年の人権実践を通して、いじめを許さない学級集団になるようにする。 ・ 各教科・領域において、児童が主体的に活動する実践を学期に1回以上行うことで、自治的な学校風土を築く。 	B
<p>取組内容②【1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>○ 支援が必要な児童について学校全体で共有するだけでなく、チーム支援の方法を考える会議をもつ。また、日々の授業づくりや特別活動を通して、すべての児童にとってわかりやすい授業になるよう工夫し、学級が安心して過ごせる雰囲気になるような集団づくりを行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「こころの天気」を活用して児童の実態把握に努める。 ・ 個別に課題のある児童や、各学級の様子について話し合う生活指導連絡会を月1回以上実施し、学級集団に入りにくい児童や学級を組織的に支援する。 ・ 学級集団づくりにつながる実践を学期に1回取り組む。 	B
<p>取組内容③【2 豊かな心の育成】</p> <p>○ 児童が所属する最も基本の集団である学級で、一人ひとりが役割をもって活躍できるようにするとともに、幼小交流を各学年年間1回以上実施したり、クラブ活動や委員会活動を含めた学年間の異年齢交流を進めたりすることで、自己有用感を高める。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各学級で学級活動の充実を図る。また、たてわり班活動の色別集会（月2回）や委員会活動（年間8回以上）、クラブ活動（年間13回以上）を継続して実施することで、児童が自主的に活動する機会を設け、実践を通して学ぶことができるようにする。 ・ 継続して取り組んでいる幼小交流を各学年1回以上実施し、豊かな心を育む。 	B
<p>取組内容④【2 豊かな心の育成】</p> <p>○ 人権教育年間計画に沿って、多様な考えや「ちがい」について考える取組を計画的に実施するとともに、日々の実践の中で、誰もが尊重される学級集団づくりを行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人権教育年間計画に沿って実践するとともに、年度当初に、各学級または学年において、「ちがい」について考える取り組みを実施し、誰もが尊重されることを実感できるようにする。 ・ 学級会を計画的に実施し、児童の実態に合わせた、自治的な学級づくりができるようにする。 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【取組内容①】

- ・ 毎学期行ういじめアンケートなどで、いじめの早期発見に努め、適切に対応することができた。
- ・ 道徳の学習や「ちがい」について考える人権実践を通して、互いを認め合い、いじめを許さない学級集団になるように努めた。
- ・ 何気ない会話の中でよくない言葉を耳にすることもあるが、その際には、「ちくちく言葉とふわふわ言葉」について考える場を設けたり、互いの良さに目を向けることができるような授業などを行ったりし、いじめの未然防止に取り組んだ。

【取組内容②】

- ・ 「こころの天気」に入力する児童が増え、児童の実態把握につながった。
- ・ 日々、職員間で児童の成長や頑張りを共有することで、たくさんの視点で一人ひとりの児童を見守った。また、個別に課題のある児童や、各学級の様子について話し合う生活指導連絡会を月1回以上実施し、学級集団に入りにくい児童を共通理解したり、その対応などについて話し合ったりしたため、組織的に対応することができた。
- ・ 一人ひとりの「もちあじ」について考えるなど、互いの良さを認め合う集団づくりにつながる実践に取り組んだ。また、学級の課題について、話し合っ解決することをめざし、仲間を大切にしようとする集団の育成に努めた。

【取組内容③】

- ・ たてわり班で活動する色別集会や、高学年の委員会活動、クラブ活動を継続して実施することができた。そのため、小学校学力経年調査の児童質問紙では、3年生から6年生まで、自己有用感の高まりが見られた。
- ・ 幼小交流を行うことで、どの学年の児童も自分の役割を果たしたという達成感を感じていた。

【取組内容④】

- ・ 人権教育年間計画に沿って実践するとともに、年度当初に各学級または学年において、「ちがい」について考える取り組みを実施し、誰もが尊重されることを実感できるようにした。その結果、互いを認め合える児童が増えた。
- ・ 今年度、日本語教室や通級教室など、児童の多様性を包摂する取組がはじまった。担当教員と担任が児童の様子を共有する中で、一人ひとりの成長が見られた。
- ・ 児童の実態に合わせた学級会を計画的に実施し、話し合い活動を行った。また、学級目標を意識した上で、児童が主体的にお楽しみ会などの企画・運営をした。係活動でも「自分たちでこうしたい」という自主性をもって活動する児童が増えた。

次年度への改善点

【取組内容①】

- ・ 毎学期行ういじめアンケートを通し、いじめの早期発見に努めるとともに、道徳教育の中でもいじめを許さない学習を進める。また、安全・安心な集団づくりを継続して行っていく。

【取組内容②】

- ・ 「こころの天気」は声掛けをしないと全員が入力していないことがある。課題のある児童ほど入力できていないことがあるので、継続して声掛けを行い、児童の気持ちの変化に気づけるようにする。

【取組内容③】

- ・ 上学年のリーダーシップを中心とした自主的な活動だけでなく、下学年も役割をもって活動したり、リーダーを支えるフォロワーシップを育んだりすることでさらに自己有用感を高めていく。
- ・ 人の役に立つ人間になりたいという児童を育てるため、委員会活動によって学校が良くなっているという達成感を感じさせる声掛けを行っていく。

【取組内容④】

- ・ 人権教育年間計画に沿って継続して指導するとともに、学年の実態やそのときの児童の様子に合わせた学習に取り組んでいく。
- ・ 今後も、児童の多様性を尊重しながら、誰もが安心して過ごせる学級になるように引き続き集団づくりをしていく。

(様式2)

大阪市立中大江小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。 (R6 3年1.08 4年1.06 5年1.06) (R7 4年1.08 5年1.13 6年1.05) ・ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を86%以上にする。 (R6本校84.3% 市78.7%) (R7本校84.3% 市78.3%) ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を45%以上にする。 (R6本校43.7% 市40.5%) (R7本校46.5% 市41.6%) ・ 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。 (R6本校69.0% 市68.9%) (R7本校68.5% 市69.2%) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【4 誰一人取り残さない学力の向上】 ○ 学力向上に向けた国語の検証授業や、教員全員が取り組む「一人一授業」を、相互参観することで、教員の授業力向上を図る。	B

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 国語の検証授業を学校として年間2回以上、「一人一授業」を教員それぞれが年間1回以上取り組む。また、多くの教員が授業に参加しやすいように工夫し、それぞれの教員が公開に参加する回数を3回以上として授業力向上を図る。 	
<p>取組内容②【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年生以上の理科専科教員と理科補助員が連携し、実験・観察を充実させることで、児童が理科の授業に前向きに取り組むことができるようにする。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 理科授業を年間1回ずつ公開し、各学年の系統性を整理するとともに、児童が主体的に取り組む授業について研鑽を積む。 	
<p>取組内容③【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教科において、1つの单元の中で1回以上対話的な学びにつながる学習に取り組む。また、特別活動や総合的な学習において、児童が主体的に活動し、学び合いを深める実践を行う。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 「一人一授業」や研究授業、学力向上に向けた検証授業において、参観の視点に「言語活動」を設定し、対話的な授業が学校全体で実践されるようにする。 	
<p>取組内容④【5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究教科を体育科とし、研究授業や討議会、研修会等で学んだ授業の工夫を生かして授業改善に取り組み、運動好きの児童を増やす。また、多様な運動の機会をもてるようにする。 	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学年の実態に応じた体育科の研究授業を年間6回以上行うことで、仲間と関わりながら体を動かすことの楽しさや心地よさを感じることができるようになる。 出前授業や委員会等の取組を通して、運動時間が確保できる機会を学期に1回以上もてるようにする。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【取組内容①】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国語科の検証授業は、年間3回実施することができ、児童の学びの深まりを見ることができた。また、参観者は、国語科における基本的な学習展開について、理解することができた。 「一人一授業」は計画通り実施することができた。一部の教員は、毎回少しの時間でも授業を参観し、自身の授業力向上に努めていた。 <p>【取組内容②】</p> <ul style="list-style-type: none"> 理科の公開授業について、概ね計画通り実施することができた。また、日々の授業について、各学年の専科教員が意見を出し合いながら組み立てていたため、質の高い授業が展開された。 理科補助員が、実験道具の準備をするだけでなく、他校でこれまで行った実験の結果を、実際の経験を基にして伝えたため、効果的な実験結果を出すことができた。 3年生の学習である「アゲハチョウの羽化」について、他学年も学べるように職員室前で行ったり、夏季休業中の自由研究で府の科学賞に応募した研究を、校長室前に掲示したりするなど、理科好きの児童を増やす取組を継続して行った。 	

- ・ 専科教員の学年を越えた協力や、低学年からの理科教育への意識づけが評価され、取組を好事例として大阪市教育フォーラムで紹介した。

【取組内容③】

- ・ すべての教員が、日々の学習で話し合い活動を重視して授業を進めたため、小学校学力経年調査の児童質問紙「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」について、最も肯定的に回答した児童の割合が目標の45%から1.5ポイント上回った。また、令和3年の全国学力・学習状況調査の結果から22.2%上回った。
- ・ 「言語活動」を授業参観の際の視点に設定したため、研究教科だけでなく、「一人一授業」でも、対話を意識した授業実践になっていた。
- ・ 5年生では、総合的な学習の時間に企業と連携した探求学習に取り組んだ。「オフィスデザインを考える」というテーマで、自分たちで課題を見つけて情報を整理し、まとめたことを企業の方にプレゼンテーションするという一連の学習を通して、児童は主体的に学びを進めていた。また、学習材、一緒に取り組む友達、会社の担当者の方と対話をする中で、学びを深めることができた。

【取組内容④】

- ・ 各学年の実態に応じた体育科の研究授業を年間6回実施した。学年検討会、研究部の検討会など、1時間の授業に授業者だけでなく多くの教員が関わったことで、多くの教員の授業力が向上するだけでなく、体育科の学習における基礎・基本の共通理解が進んだ。また、研究授業後に学んだことを他の学年の教員がすぐに取り入れていたため、学校全体の授業の質が向上した。これらの取組により、児童は、なわとびやバレーボールなど、体育の授業で学んだ運動を休み時間に行うようになり、運動時間の増加につながった。
- ・ 仲間とともに体を動かすことの楽しさや心地よさを実感できるようにする体育の授業や出前授業、運動委員会の休み時間の取組などを通して、外遊びに参加する児童が増えた。

次年度への改善点

【取組内容①】

- ・ 「一人一授業」の参観について、参観しにくい状況も見られるため、改善を図りながら全員が参観し合えるようにする必要がある。

【取組内容②】

- ・ 理科について、専科教員が連携するだけでなく、学年でも様子を共有するなど、児童の成長を多面的に見ることができるようになる。

【取組内容③】

- ・ 児童は話し合いができていると実感しているが、児童同士で話し合っ課題を解決したり、話し合う中で自身の考えを深めたり広げたりする学びについて、今後も研究を続ける必要がある。

【取組内容④】

- ・ 限られた運動環境の中で、さらに運動好きの児童を増やすために、運動の楽しさや心地よさを感じることができるよう授業づくりを日々行うとともに、実践を深めていく。

大阪市立中大江小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】 <ul style="list-style-type: none"> 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕(R7本校8.0%【1月末】) 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を70%以上にする。(R6本校69.05% 市62.16%) (R7本校70.21%【2月末】) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【6 教育DX(デジタルトランスフォーメーションの推進)】 ○ こころの天気を入力するなど、学年の発達段階に応じた方法で日々学習者用端末を使う習慣をつけるとともに、学年の発達段階に合わせたキーボード入力等の習熟を図り、情報処理能力を高める。	B
指標 <ul style="list-style-type: none"> ICT研修を学期に1回以上実施してタブレットの活用を進め、学校生活アンケートの「毎日タブレットを使っていますか。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 (R6 74.4%) ⇒ (R7、1月81.2%) 	
取組内容②【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ○ ゆとりの日を週1回設定して会議等を入れないようにし、業務管理を意識できるようにする。	B
指標 <ul style="list-style-type: none"> 行事予定にゆとりの日を明記し、計画的に実施できるようにすることで、第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を、昨年度よりも改善する。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【取組内容①】 <ul style="list-style-type: none"> 「こころの天気」の入力の習慣化や、デジタルドリルの活用、まなびのポータルのお知らせ機能を利用した連絡帳などにより、毎日タブレットを使用すること自体は習慣化してきた。また、ICT研修を月に1回以上行ってきたが、教室で使える・授業で使える内容の研修により授業でのタブレットを使用する機会も増えてきた。 【取組内容②】 <ul style="list-style-type: none"> 「ゆとりの日」を設定することで、会議のない日が増え、勤務時間を短縮することができた。 	

次年度への改善点

【取組内容①】

- ICT 機器を活用した学習の機会を増やせるよう、内容を考慮しながら研修を積極的に行い、参加を促していく。
- 情報処理能力を高める取組みも行ってきたが、キーボード入力など学級によって取組みに差が生じている。そのため、ICT に関わる取組みを共有することで、学年間の取組みの差をうめられるようにする。

【取組内容②】

- これからも週に1日のペースで「ゆとりの日」を設定していく。事前に周知できるよう、工夫していく。
- 「働き方」だけでなく、「教員の働きがい」についても考え、全員で働きやすい職場をつくるようにしていく。